

甲佐町議会だより

第86号

平成10年10月23日



清流

発行 熊本県上益城郡甲佐町大字岩下194 甲佐町議会 ☎(096) 234-1111 編集 議会広報編集特別委員会



今年の表紙シリーズ

花

秋の空に大きく咲き誇る彼岸花

ひがんばな

彼岸花は土手や田のあぜなどに群生する多年草。秋になると深紅の色の鮮やかさで咲き乱れ、有毒成分を含むが煎汁は薬用、別名まんじゅしゃげ。

(撮影 中甲橋グリーンパーク)

主な内容

- | | |
|-------------------|-------|
| なぜ多い? 繰越事業 | 2 |
| 龍野小プール・岩下消防ポンプ車承認 | 3 |
| あなたにかわり町の考えを聞く | 4-9 |
| 一般質問 | 6人 |
| これだけはきいておきたいQ&A | 10-11 |
| 傍聴席から一言・研修報告 | 12 |

9月定例会は、14日から18日までの5日間の会期で開かれ、平成10年度一般会計補正予算ほか16件と請願2件、陳情1件、意見書の提出2件を審議し、平成9年度一般会計ほか各特別会計の決算の認定の議案以外はすべて可決した。

平成9年度決算認定は特別委員会で継続審査

なぜ、多い？

甲佐町の繰越事業

繰越額

平成8年度 3億2千万円

平成9年度 2億8千万円

平成10年度 2億2千万円

本定例会に平成9年度一般会計ほか5特別会計の決算の認定について議案が執行部より提出された。

平成8年度においては3億2千万円、平成9年度は2億8千万円、また、平成9年度より平成10年度にかけては2億2千万円の事業が繰り越された。

繰越事業の主なものは、町道の改良・舗装などであり、執行部の説明によれば事業実施の遅れは国からの起債（借入金）の許可の遅れが原因であるとのこと。担当課は起債の許可を待って事業の設計・用地の取得を進めるため当該年度に工事を完了することが出来ず、翌年度に繰り越す結果となっている。

郡内6町村の繰越件数の62%を本町が占める！

上益城郡内の6町村の平成9年度から10年度への工事繰り越し件数を調査してみると、御船町・嘉島町はなし、清和村・益城町は1件、矢部町は4件、本町は10件と上益城郡6町村の繰り越し件数の合計は16件であり、本町の10件は総件数の62.5%を占める。

執行部

本年度は早期実施と繰越事業の解消に向けて努力を表明！

建設費 6,457万5千円

龍野小プール の工事請負契約を承認！

来年3月完成を目指す

龍野小学校のプールは昭和43年に建設され、今日まで31年を経過して老朽化し、最近では漏水が目立ちプールの改修が叫ばれていた。本年9月、地元の建設業者6社による競争入札により6,457万5千円の最低入札者と契約を締結した。

建設工事費5,000万円以上は地方自治法第96条と町の条例により、議会の議決を必要とする為、9月議会に提案され、提案どおり可決された。議会としては立派なプールが来年3月に完成するよう期待している。



来年3月の完成を目指し、急ピッチで工事が進む龍野小プール

岩下消防ポンプ車購入を承認

9月議会に岩下消防ポンプ車の購入契約が提案された。岩下消防ポンプ車は昭和54年に購入され、現在まで20年間にわたり活躍して来たが、最近では老朽化が激しく故障がちであった。9月に1,034万2,500円で購入契約が済んだが、購入金額が700万円以上については議会の承認を必要とする為、議会に提案された。議会ではポンプ車購入の契約については全員一致で承認した。尚、ポンプ車が完成し岩下消防団に引き渡されるのは来年2月の予定である。

地方分権と 地方議会

国において地方分権推進計画が決定した。それが実現すれば地方分権により今より数倍の権限が市町村長に与えられることになる。今後はそれに対して地方

議会と地方議員の本来の機能をどのように発揮し、地域住民の負託にどう応えることができるか、その具体的な方策は何か、いま改めて問われている。地方議会の活性化というテーマは分権改革の重要な柱のひとつともなっている。その視点として

◎地方議会の自主的強化
◎地方議会の議決権範囲の拡大

◎地方議会の議決権の強化
◎地方議員の政策立案・審議能力の向上

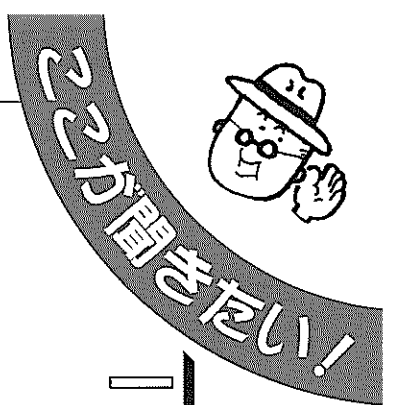
◎議長・監査委員・議員の在り方
◎対住民関係の改善

以上の問題について改革が必要である。

町民の代表たる町長、また住民の代表たる議員という二元代表制の現状において、町政の基本である住民の意志をどのように反映させていくか、議会は行政一般を監督し、チェックし、調査、研究能力、住民要望に對して企画・調整能力をもつことが今後の重要な課題である。



20年間にわたり活躍して来たポンプ車も、来年2月には新しいポンプ車にバトンタッチ！



「一般質問」と

答弁

第三回定例会の一般質問は、九月十六日に行い、六人の議員が登壇、町の施策をた

緑川の水質汚濁をどう考える?! 高木英吉議員
住民の意向を充分反映させたい 町長

高木議員

建設省熊本工事事務所の発表によると、緑川水質を改善するために、緑川ダムを選択取水設備工事を平成十二年度に着工するとあり、今後緑川の水質改善ができると期待するが、その方法により汚濁の七割の改善という内容とし、本年度、来年度、詳しい設計図ができるとの報道の中で、町長もこの協議会に参加される事と思うが、この選択取水が充分な効果を発揮する様、研究調査をして協議会に於

いて、下流域の住民のための設計になる様に努力して欲しいが?

町長

流域住民の意向を充分反映できる様に努力したい。

企画課長

建設省として、まだ基本設計に入る前の段階で、現時点では、具体的説明はできないが、近いうちに省として、町、議会、関係する団体、緑川漁協等に説明があるものと思う。今後なるべく早く基本設計を進めてもらう様、要望する。

ダイオキシン問題に対する本町の取組は? 高木議員

EM 菌による堆肥化を推進 町長

高木議員

一般ゴミ等の対応の中で非常に大きなダイオキシン問題があるが、国、町レベルでいろいろと研究をしていると思う。本町ではどのような対応をするのか?

町長

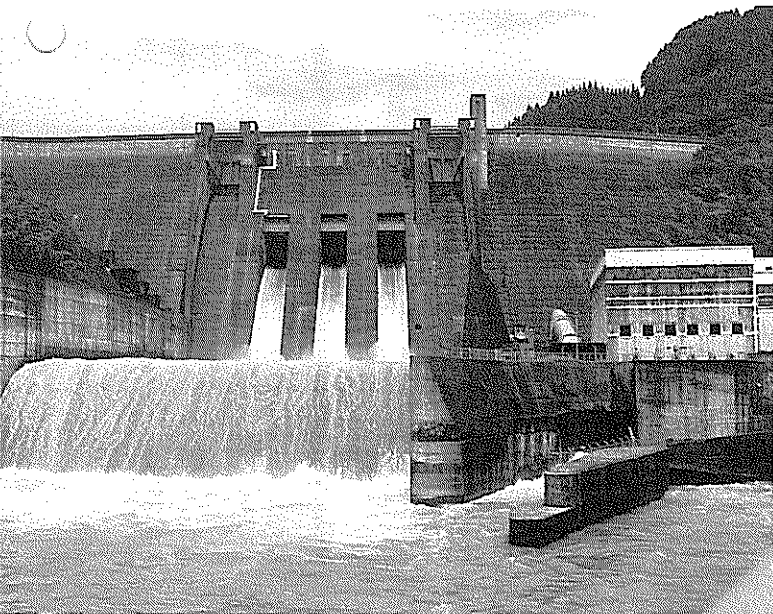
ダイオキシンが発生しやすいビニール・プラスチック製品と一般ゴミを分別収集を行い、生ゴミについてはEM菌による堆肥化を進めたいと思っている。

高木議員

ほかし菌による生ゴミの堆肥化は行政が行うということなのか?

町長

住民のEM菌による堆肥化を積極的に支援するということである。



汚濁水解消のため平成12年より選択取水施設が設置される緑川ダム

本町の給食食器は安全か? 高木議員

環境ホルモン問題とは別の容器を使用!! 町長

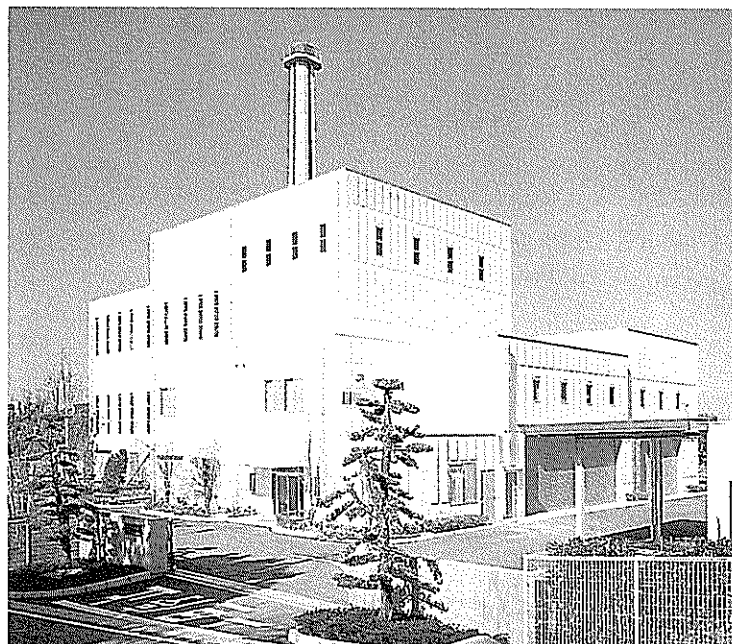
高木議員

学校給食で環境ホルモンが大きな問題となっているが、これは食器が原因と言われる。本町においてはどのような状況なのか? 同時に給食の材料については安全性はどうか?

学校教育課長

新聞報道で指摘されているのはポリカーボネイト製の食器であり、本町で使っているのはポリプロピレン

製の容器である。この容器については一〇〇%安全であるかどうかは今のところ確認されていないが、今本町で使っているものは四年前に購入したもので、その対象となっていない。給食用物資については調達する際には納入業者より生産地を示してもらい、添加物もなるだけ少ない物資を購入している。



ダイオキシンの排出抑制のため施設改善が必要なクリーンセンター

白旗小学校の 施設整備を急げ

奥名克美議員

早急に対応する問題である

町長

奥名議員

町道辺場山大道線の付替道路は関係者の努力により本年度に完了するが、あとの町道跡地を含めた小学校内の敷地整備をお尋ねする。具体的にはプールの改修、体育館一般利用者用の駐車場整備、また正門の移設、敷地内の危険箇所やプールの西側の危険な場所の対処、そしてパソコン増設による専用の教室の確保についての考えを。

教育長

プールについては35年経過しており、いまだき浄化槽がないプールは考えられない。改修が遅れたことは関係の方々に申し訳ない。充分検討をしたい。

体育館については狭隘であるし便所もない現状で、この施設は健康維持の面からも必要なものである。

本年度学校周囲の総合的な利用等を含め、計画の青写真の予算を要求している。

学校教育課長

正門の橋については進入し易いように改良する。プールの西側の崩落部分は応急措置で考えている。敷地内の危険箇所やコンピュータ室の増設は、来年度あたりに向け総合的な計画の下に整備を行っていきたい。

町長

実施計画については、早急に対応する問題として、充分検討をしたい。



全体的な整備が望まれる白旗小
(体育館・プール)

国県の補助事業に対する 本町の取組は万全か?!

奥名議員

経済活性化対策は 今が好機会と思う

町長

奥名議員

国は経済対策として公共事業で16兆円の補正をされ、県でもその関連事業に142億円程の措置がある。このよな中、本町でも要望している新規事業の採択や現在行っている県営事業の追加補正などに反映はあると思うが、その状況を聞く。

町長

経済活性化対策についてはチャンスかと思っている。

総務課長

国県の事業費が増額する

県の事業について

奥名議員

県土木事務所の事業予算の配分について、管内の他町村と比べると本町が一番少ないが、この点についてお尋ねする。

町長

お尋ねのとおり事業は少なく、これから矢部土木にお願いして増やすことを考えていく。

用地対策等は

奥名議員

事業執行する時、用地買収が出来ないと他町村に事業費がまわる事態が考えられるが、用地対策は万全か。また繰越事業が多く、今後町の重要施策や継続事業として進められている件について、実施年度の前年に用地買収、測量設計が

町長

終わっておれば補助事業の内示が遅れても事業の年度内完了が見込めると思うが、

総務課長

内示が遅れても事業の年度内完了が見込めると思うが、

総務課長

事業執行をする時、土地開発公社を通し先行取得や測量設計を事前に行うことは充分効果的と思う。

起債事業については早期発注をし、繰越が少なくなるよう進めたい。補助事業についても前年度に土地の先行取得、測量設計を進めて行きたいと思う。

リバーサイド パークイン 甲佐について

奥名議員

糸田堰周辺の 整備も行う

経済課長

奥名議員

糸田地区内に平成12年に甲佐大橋が完成するが、糸田堰周辺整備はこの構想の中でどうなっているか。

経済課長

当基本計画の中で糸田堰周辺の整備計画があり、具体的には河川公園をつくり川遊び場、ボート遊び場などの水上レクリエーションのできる整備を考えている。

他に学校のクラブ活動指導体制の強化について。水道事業について質問がありました。

糸田堰周辺の公園整備を!



環境問題について

佐藤義郎議員

対策を検討中

町長

ダイオキシンの対策は

佐藤議員

ゴミ焼却場のダイオキシン対策はどうなっているか。町長

平成14年には規制が厳しくなる。24時間燃焼できる

焼却炉があればダイオキシンの濃度が低くなるが、現状では広域で取り組むのも難しい。ひとつはダクトの改善、ひとつはプラスチック系のゴミの分別処理、ひとつは生ゴミの堆肥化等を研究、検討している。

佐藤議員

クリーンセンターの新人職員は環境問題に詳しい人を配置したのか。また町の出向でよかつたのでは。町長

詳しい人ではないが、勉強させている。御船町と甲佐町で作っている組合なので、この際、組合で採用することにした。

産業廃棄物の処理は

佐藤議員

津志田の産業廃棄物の件で何が投棄してあるかもわからない、大丈夫なのか。保健課長

保健課長

保健所の指導で回収作業中である。最終的には県の廃棄物対策課の確認となる。

城平山の

採土跡地の処理は

佐藤議員

採土跡地で事故が起きているが、契約どおりに更新も行われていない。また採土後の配分はどうなっているのか。総務課長

総務課長

何回も契約更新をしてきたが現在、契約切れになっている。林地開発も期限が切れており、業者にも許可を取るようお願いしている。また町有地については一部を売却して残りを整備して一定の地区にお返しをする約束になっている。

やな場への影響は

佐藤議員

豊内の裏山の採石場のダイナマイトの音や振動、またほこりなどが近くのやな場に影響はしないか。また裏山からの土石流の心配はないか。元企画課長

元企画課長

ダイナマイトは県の指導のもと爆薬の使用量を抑えている。粉塵は散水により拡散防止対策を行っている。土石流に対しては岩石による防護柵の築造と階段部分には植栽をしている。

高齢者対策はどうなっている

佐藤議員

介護保険等、勉強中である

町長

佐藤議員 介護保険が進められていくが、政府が進めている法案は不十分である。第一に、保険料を払っても審査委員会が選んだ人だけしか介護を受けられない。第二に、利用者は現在無料で受けられている人でも一割負担をしなくてはな

らない。また自治体の負担が大きすぎる。町としてはこれを許すわけにはいかないとと思うが、町長の見解は。町長 今の社会では高齢化の問題は社会が面倒を見ていくとの観点から、公的介護保険は誕生したと思うが、現在段階的に判明しているが、保険料の問題やその仕組みについてもまだ勉強中である。介護保険係を設けて対応しているが、別に全国組織の福祉ユニットにも入っている。厚生省にも疑問点はある。は言っていきたいと思っ



平成12年介護保険の開始に向け、福祉生活課に介護保険係が新設された

助で町の対応はどうなっているのか。町長

熊本県多子世帯子育て支援事業で、本年10月1日より軽減を行うことになっている。佐藤議員

6歳未満児までの医療費の無料化は福祉でやるべきだと思いが。町長

現在、入院は5歳未満まで、通院は3歳未満まで無料になっているが、順次、今後できる限りの支援を行いたい。

少子化対策は

佐藤議員

第3子からの保育料の補



砕石採取の為、開発が進む砕石場（上豊内）

農業振興計画の今後は 農業ビジョン策定で協議を

佐藤良一議員
町長

佐藤議員

新農業基本法に向けて、消費者サイドから見た食糧事情、農村を取り巻く環境、安定的、安全高品質な農産物の供給に対し、甲佐町の農業ビジョン作成が取り組まれているが、時期はいつになるのか。

農業は国際化、後継者不足等、大変な時代を迎えているが、我が町の農業ビジョンを策定している。今後元気ある農業にするため、協議会等を開催して議論をしていきたい。

町長



秋晴れと同時に一斉に始まった稲刈り（仁田子地内）



改良が待たれる仁田子～大町間用水路

用排水路の整備を町で進めたい
補助事業で進めたい
佐藤議員
耕地課長

佐藤議員

集落内の用排水路の維持管理は村の公役で行っているが、修理等に対応できないところもある。また用排水路が下水路にもなっている。計画的に少しずつでも整備できないか。

耕地課長

水田の用水路が現在、用排水路となっている水路が多くある。工事をするにも原材料等では対応できない。冬場は排水路だけになり、蚊の発生や臭気もあり保健

道の駅誘致の考えは
佐藤議員
町長

佐藤議員

近隣町村の観光地の交通の拠点として、今後の計画の中に道の駅あたりの物産館を考えてみてはどうか。

町長

九州ハイランド構想もあり山の方の観光の通過地点で、甲佐の観光を考える場合、物産館や道の駅の考え方もあり、欲しいと思う。

益城橋 架け替えは？
佐藤議員
町長

佐藤議員

益城橋架け替えについて、県代行業業と今後の見通しについて説明をお願いしたい。

町長

町長

測量同意が得られ、地形測量が完了している。地元説明会を開いて、早急に対応したい。

佐藤議員

橋の両方に取り付け道路ができるわけだが、どこまでが県の代行業業でできるのか。

建設課長

代行業業は橋と橋りょうと取り付け道路一帯となっている。甲佐町内では仁田子の村中線の道路の接点までを行う。

佐藤議員

土木事務所の管轄が違うと思うが、工事の発注はどうなるのか。

建設課長

事業の主体は松橋土木事務所になっているが、甲佐側の用地買収については、矢部土木事務所を買収すると聞いている。工事についても甲佐側については、甲佐の業者にと要望している。

保健センター 建設の時期は？
佐藤議員
町長

平成11年に建設予定

町長

佐藤議員

保健、福祉センターの建設の時期と完成後の事業内容は、在宅支援介護センターをその中に設置する考えはないのか。

町長

予定どおりに平成11年に建設したい。介護支援センターについては、現在甲佐町と中央町で委託しており、保健センターの中に入れる交渉は行っていない。



前年度よりの繰越事業で改良が進む町道辺場山道線

21世紀に向けた ビジョンは

北畑常博議員

環境・福祉・教育を 中心に取り組み

町長

北畑議員

もう、21世紀がそこまで来ている。町長は行政に慣れないとか、勉強不足と言われて来たが、町長に就任された時からプロと思う。21世紀に向けたビジョンを聞きたい。

町長

21世紀に向けては、やはり環境、それから福祉・教育を中心にして、私なりに構想を描きながら進めて行きたい。

道路網整備に本腰を

北畑議員

用地交渉に総力をそそぐ

町長

北畑議員

工事の繰越が、最近目立って来ている。なぜ多いのか、それは仕事をしてないからである。本当に仕事をしているなら、繰越が増える訳がない。

原因はどこにあるのか、明確な返事を聞きたい。

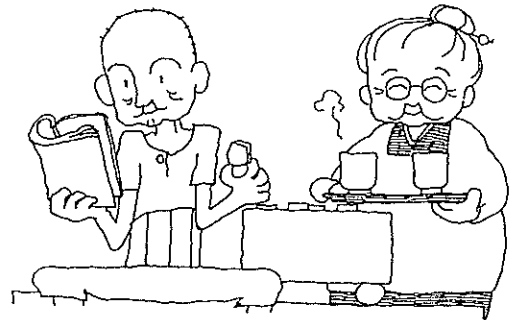
町長

用地交渉で、時間がかかっている。

矢部土木事務所に陳情に

行った折りに、度々言われる事だが、「用地がきたら予算はつきます」と。

用地開発課を中心に、区長、議員、もちろん我々が頑張っ、先頭に立ちたい。



学校教育の問題点にどう取り組む

北畑議員

教育カウンセラーを配置

教育長

北畑議員

少子化、いじめ、いろいろの問題はあるが、登校拒否の子供が少し多すぎるのではないか。

子供を親元から離して、伸び伸び勉強をさせる、そういう施設のことを考えてみた事はないか。運動なら運動を、トップレベルの子供を育成すれば、人も寄って来ると思うが。

教育長

不登校生徒の数が特別ふえている訳ではない。7名から10名、月によって増減はあるが、大体7名程度といった所です。対策としては、教育カウンセラーを2名配置をした。学校以外の場所でも、生徒指導をやって行きたい。



甲佐中学生諸君！ 夢と希望を持って勉学、スポーツに励め！！
(体育祭で楽しくフォークダンスを踊る甲佐中生徒)

船津堅志田線の改良はどうか？

仲原正之議員

ルートを確定して進めて行きたい

建設課長

仲原議員

議員になってから十何年間、船津堅志田線の改良を町民の代表として要望しているが、まだ実現していないがどうなっているのか？

部落では大体ルートが決まっているが、改良する場合、起点か終点まで工事をしなくてはならないので、ルートを早く確定して進めて行きたい。

税金のむだづかいはないか？

仲原議員

適切な予算の執行が行われたと思う

総務課長

仲原議員

町村合併以来、今年は三十年目を迎えたが、各年度の予算の中で辛抱できるものはなかったのか、又、反省すべき点はないのか。

総務課長

その時々年度の予算を組んでおり、適切な予算が生まれ、執行されてきたと認識をしている。



むだ遣いはないか？ 町監査委員の厳しい目が！ (監査風景)



人権擁護委員

金柿純子氏(世持)を推薦

本町の区域に置かれる人権擁護委員が一名増員されることに伴い、今回、本町で初めて女性の委員として、世持部落の金柿純子さんが候補者に推薦された。



人権擁護委員に推薦された金柿純子氏(世持 57歳)

請願・陳情・意見書

- ◎ 学校事務職員・栄養職員の国庫負担制度の堅持を求める請願
- ◎ 義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書の提出
- ◎ 過疎地域活性化の為に新立法措置に関する意見書の提出
- ◎ 消費税の減税を求める意見書の提出に関する陳情書

採択

採択

採択

不採択

さんじ休憩



幼い頃から「あいさつ」の大切さは学校・両親からその都度教わって来た。今日の我々の地域社会、職場において心のふれあう「あいさつ」があるのか疑問だ！ あえて言えば欠如してはいないだろうか？ 毎朝、早くから野良仕事に出ているが、決まった時刻に自転車に乗り通学する女生徒がいる。私を振り向き、朝日を顔一杯に受けながら、笑顔で「おはようございます！」、私も弾んだ声で「おはよう！」なぜか仕事の疲れがいつぱんに吹き飛ぶ。 こんな女生徒はいずれの場所でも周囲を明るく、楽しくしてくれると思う秋の一日でした。



これだけは まいておきたい

今期提案された条例3件および工事請負契約他、各会計補正予算案について審議がなされ、以下審議の論点を要約してお知らせします。

論点

条例・予算審議より

Q & A

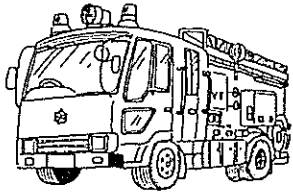
消防車導入に 国の補助は？

Q 1

今回、岩下区に消防ポンプ自動車配備されるが、購入にあたり、国の補助金はどういった内容になっているのか。

A 1

ポンプ車購入には、国庫補助が55%で、残金については起債充当と一般財源で対応する。



田口中山線のフェンス 撤去要望後の経過は？

Q 2

鉄筋団地内の町道田口中山線の町道認定にあたり、敷地内のフェンスを撤去して欲しい旨の要望があったが、その点どういう経過を経て今回提案されたのか。

A 2

要望を踏まえて鉄筋団地、県の金融課に出向き協議したが、会計検査を控え、補助金適法や高度化資金の問題等も有りフェンスを撤去するには至っていない。その点、御了解を得て、今回の町道認定をお願いしたいと思いい再提案をした。

バス停新設の 許可が簡素化!!

Q 3

町営バス停留所に新たに「小峯入口」を設けられるが、後で道路改良を行う際、交差点の問題等により、支障が出てくる事はないのか。

A 3

路線バスの停留所の新設については、従来は、県の公安委員会の許可が必要であったが、現在は権限移譲により、甲佐町を管轄する御船警察署の権限になった。今回、新設する際も御船署に現地確認を行っていただけに現地確認を行っていただけであるし、将来的に事情が変わっても、その都度警察と協議し、安全な方法で停留所を設置できる。

龍野小プール・設計 価格は妥当か？

Q 4

龍野小プール改修工事の請負金額は、他町のプール改修工事と比較した時に、安価であり、設計、積算においては妥当な処置がなされたか。

A 4

設計価格については、業者に無理のいかない充分耐えうる金額だと思われ、設計単価も充分考慮している。

介護保険事業の体制 整備の財源措置は？

Q 5

高齢者介護サービス体制支援事業は、今回追加補正され750万円予算化されている。おそらく介護保険の準備費用と思われるが、この事業に対して国の補助制度はどうなっているか。

農機具倉庫新築に 国の補助はないのか？

Q 6

町内の各生産組合では高額の農業機械を保管する倉庫の設置について苦慮されていると聞かすが、現在は町の単独で農機具倉庫新築補助金を出している。国、県の補助はないのか。

A 6

農機具倉庫新築補助金については、今年度、集落活動対策事業の中で吉田地区のコンバイン保管庫の増築工事に対する補助であり、40%を町が補助する。なお、国県の制度事業については、未だ把握できていない。



新しく町道に認定された田口鉄筋団地内の田口中山線



町民の足として喜ばれている町営バス

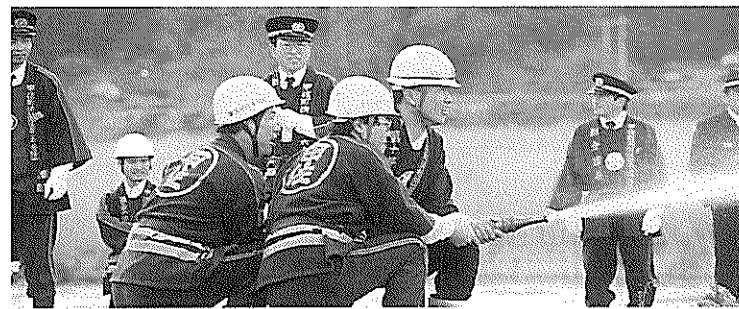
追跡

消防機動力は県下町村で1位 郡消防操法大会でも10連覇達成

本町の消防機動力はポンプ車7台、積載車16台、積載車(軽)5台、可搬ポンプ2台を保有し県下唯一の機動力を誇る。また、消防技術向上をねらった上益城郡消防操法大会ポンプ車の部で10連覇を達成し県大会でも2大会連続の準優勝に輝いている。

しかし
消防団員が少ない！ ほとんど町外勤務！
プールに消防車入れない

消防団員のサラリーマン化が全国的に進むなか、政令指定都市では、その比率が40%であるのに対し、非常備町村を含めた人口一万人未満の市町村では、70%を上回るといった結果がでており、甲佐町においても同様の傾向が現れています。このような現状から考える時に各企業の消防団組織への理解度を深めていただき、団員の加入促進についても町当局のPRも重要となります。



機敏な動作が求められる放水競技

今日の消防団が発足してから、五十年余りが経過しました。消防団の長い歴史は、地域住民自らが、災害とたたかい、災害から住民の生命、身体および財産を守り続けてきた歴史であり、この間、消防団は地域社会における消防防災組織の中核として重要な役割を果たしてきました。

本町の消防団においても、現在、団長以下六百十六名の団員で活動されており、組織としては八つの分団三十の部で構成されています。一方、若年層の減少等に伴う団員数の確保の問題や、サラリーマン団員の増加に伴う昼間の消防力の低下など、今日、様々な課題を抱えているのも現実であり、今回は本町の消防団の実態に迫り追跡レポートをお届けします。



一糸乱れぬ団結を誇る甲佐町消防団(点検風景)

上早川区では 消防団OBが大活躍!!

常備消防の整備が確立した現在においても、消防団が重要な消防力を有する事にかわりはなく、期待される活動内容を維持していく為、全国的には女性消防団の組織も発足し、平成9年4月1日現在七、五九二人が活躍されています。本町

では、そういった組織はありませんが、消防団OBの組織作りがなされた地区もあり、上早川区ではOBの方々が活躍中です。

また、今後の方向性としては、各校区の地域の実情を踏まえ、各団、各部の組織再編成についての検討も重要になってくると思われます。

火災発生件数(最近10年間)

昭和63年度	5件	平成4年	3件	平成8年	5件
平成元年	4件	平成5年	2件	平成9年	3件
平成2年	6件	平成6年	2件		
平成3年	5件	平成7年	2件		

甲佐町の消防施設整備状況

防火水槽	40m	3級	80基
	40m	3級未満	20基
地上式消火栓			11基
地下式消火栓			188基

傍聴席から一言

清流緑川への思い

高濱宇生 (岩下二区)



野山は秋の到来で赤や黄色の色とりどりの衣装で、私たちの目を楽しませてくれている。

先日、市街地を流れる大井手川で子供達が大声をあげながら魚を追いかけていた。大井手川の落水により水位が減少し、近所の子供達が上半身を裸になりながら上へ下への大騒ぎだった。

思えば、私たち子供時代にも稲穂が実りこうべを垂れるころ、大井手川の落水の季節が来ると、学校の勉強はうわの空で学校が終わるのを待ちかねて家に飛んで帰り、網やテポ（魚を入れる物）を持って年に一度の魚を求めて目の前の子供達と同じように歓喜の声をあげ、夕暮れのカラスが群れて巣にかえるまで川で魚取りに興じていた頃を懐かしく思い出し笑顔がこぼれました。

今は、川に親しもうにも昔と違って魚も少なくなり、小川もコンクリートに囲まれ、緑川に至っては川岸に近づけない程のヨシ・葦などの雑草で堤防が覆われ、空カン・空きビンなどが捨てられている。今、社会問題となっている自然環境破壊、自然あふれる甲佐町も着実に自然破壊が押し寄せている。甲佐町の母なる川と言われている「清流緑川」をこのまま残したい。しかし、先日の新聞を見れば九州の一級河川で水質汚濁はワースト4と掲載されていた。また、緑川ダムの「アオコ」発生で水面が緑色に埋まり、「昔の緑川はどこにいったのだろうか」と愕然とした。

この度、緑川ダムに水質改善施設が設置されると聞く。完成後は水質汚濁の70%が改善され緑川の水質が浄化されるらしい。全国にさきかけ小中学校で緑川をテーマにした環境教育の実践に取り組んでいる甲佐町としては嬉しいニュースである。永年にわたり要望されて来た町当局、町議会に敬意を表したい。同時に少しでも緑川がきれいな水になることを願う町民でありたい。

研修報告

議会運営委員会

島原・深江町の災害に学ぶ

日常の危機管理・危険予知が大事

本町議会の議会運営委員会は6月30日に、200年振りに大爆発した島原普賢岳で死者40名を出した長崎県深江町議会の議会運営と災害対策について研修した。災害時は役場職員と消防団の不眠不休の対応により、町民の安全と日常生活を確保し、現在に至っているが、この研修を通じて日常の危機管理・危険予知の大切さを痛感した。



急ピッチに復旧が進む水無川を視察する甲佐町議会

来町

天草郡河浦町議会

議会広報「清流」に学ぶ！

栃木県今市市議会

環境教育の推進を研修！

7月23日に河浦町議会より本町の議会広報「清流」の編集、発行を、又10月20日には栃木県今市市議会より、本町議会と環境教育の推進状況を学ぶため研修に来町された。

議会広報については、読者に手にとって、読みたくなるような紙面づくり、わかりやすい内容に心がけることに意見が交換された。環境教育については、学校教育課より環境教育の重要性や小中学校の環境教育の実践内容などについて研修が行われた。地方分権による議会の重要性がさげられる中で、今後は議会の研修、視察が活発化して来ると思われる。

編集後記

「議会だより」が発行されてから、今回で86号を迎える。

我々、広報を担当する委員会として、議会活動と審議の内容等をありのままに、また、より読みやすい紙面づくりに励んで来た。

今年から県議長会において、県内町村の「議会だより」のコンクールが企画された。その審査結果が11月5日に発表される。

本町の「議会だより」はまだまだの感はあるが、審査委員会からどのような評価をうけるか胸をときめかせながら待っている。

◎夕焼けの

川面に浮かぶ

木の葉船

